

尿路不定愁訴には清心蓮子飲を主に

Q 五十五歳、女性。気候の変わり目、寒い日、雨の日などに決まって尿がすつきり出ず、膀胱(ぼつこう)や尿道の不快感で困っています。内科や泌尿器科では特に異常なしとのことですが。

神経質で不眠傾向がある、冷え性で寒冷刺激にすぐ膀胱・尿道が過敏に反応するというタイプに適している。

A 質問者のような症状は一般に「尿路不定愁訴」または「無菌性膀胱炎」と呼ばれる病気で

この薬の収載されている中国医書には「心身が疲れることによつて、尿が混濁したり、すつきり出なかつたりすることがある。平素から口や舌がひどく渇き、よく眠れず、四肢のたるさやほてりを起こすものによい」と書いてある。

ある。内科や泌尿器科では抗生物質、抗炎症剤、精神安定剤を処方することが多いが効き目はなく、胃腸の弱い患者には抗生物質による胃腸障害など副作用を招くこともある。

漢方にはこのような症状に対して清心蓮子飲(せいしんれんしん)という処方(せし)がしばしば用いられ、非常によく効く。一般に胃腸が弱い、

なお無菌性ではなく慢性の炎症である膀胱炎を繰り返す人には、五淋散(ごりんさん)という処方がよく用いられる。抗生物質ですぐに胃腸をこわしてしまふという方は意外に多い。そこで平素から清心蓮子飲、菌に感染した膀胱炎の状態には五淋散を服用すると、この種のつらさから解放される。